

日本川崎病研究センターニュースレター

(No.16) 2008.8.1

発行：特定非営利活動法人 日本川崎病研究センター

緒言 川崎富作

残暑お見舞い申し上げます。

「夏来りなば秋遠からじ」で、「天高く馬肥ゆる」の季節もすぐ目前に来ています。"秋来ぬと目には清かに見えねども、風の音にぞ驚かれぬる"の古歌ではありませんが、朝夕の冷たい空気は將に秋を肌を感じさせます。これまで何もする気のおこらなかつた猛暑から開放され、燈火親しむ候もすぐでしょう。

さて、今までのニュースレターを振り返ってみますと、やはり毎回川崎病の病因解明への挑戦についての記事が目につきます。

ニュースレターNo.1 (2001-1-1 発行) では山口大学小児科の古川教授のグループと岡山大学免疫学の中山睿一教授のグループが、大学間の壁を取り払って川崎病病因解明のための、基礎と臨床の共同研究チームの結成が記されています。これは中山教授のグループが長年のガンの研究の中から新しいSEREX法という抗原抗体反応を応用した方法でガン抗原の発見に成功したとの報に接して、長年臨床の立場から川崎病の研究を続けている古川教授のグループと共同研究してもらえば、川崎病の病因が発見される可能性が大きいと考え、両教授に相談したところ、快諾を得て、当センター依頼の最初の研究チームが発足しました。当センターの研究費としては最大級の研究費でしたが、国や他の実際の研究費と比較すれば僅かな補助でした。

このような助成では当然十分ではありませんが、山口大学小児科の金子先生が小児科医を一時中断して中山教室まで出張して川崎病の病因の解明に取り組んで来られました。両研究室は共同で川崎病血管炎の病態および病因因子を解明する目的でヒト臍帯静脈由来血管内皮細胞 (HUBEC) から cDNA ライブラリーを作製し、SEREX 法で川崎病患者血清と反応する細胞成分 (抗原遺伝子) の解析を行った結果、46 種の遺伝子が同定され、うち 24 種 (48%) は、今までの動脈および臍帯静脈の血管内皮細胞に関連した 7 種類の Uni Gene ライブラリーに登録されていない未知の遺伝子でした。(ニュースレターNo.6 2003.8.1 古川教授) その後の成果に期待します。

このように当センターの最初の病因解明チームの懸命な努力により、一定の成果を上げたにも拘らず、病因解明までには至っておりませんが、昨年 11 月に発足した水谷哲也博士を中心にした「新川崎病病因解明チーム」では患者血清の分析から、新たに TTV (Torque teno virus) や Gene Bank にない遺伝子配列が得られたので、更なる発展に期待したいと思います。

今回は川崎病研究に長年取り組んでこられた馬場清先生と市田落子先生に玉稿を頂きました。乞うご期待。(当センター理事長)

Japan Kawasaki Disease Research Center

「これからを期待して」

馬場 清

本年3月をもって、長年お世話になった倉敷中央病院を退職して、大阪発達総合療育センター南大阪療育園に小児科医として勤務しています。昨年で65歳になったので、かねてから考えていた障害児(者)医療の分野でお役に立てないかなと思って転身しました。重症心身障害児(者)の入院が60名おられ、レスピレーター装着の患者さんもおられます。病歴をたどってみると、未熟児・新生児医療などの先進医療を受けられた結果の患者さんも多く、驚いている次第です。急性期医療しかも専門医療の中心にいた私としては、結果としてのこのような状況を受けとめた上で、自分にとって新しい分野なので、新人になったつもりで勉強しています。働いておられる職員の方の気持ちを伺ってみますと「この子(人)たちにとって最後の砦になるつもりです」という言葉が返ってきました。

ところで、川崎病に長らくかかわってきましたが、川崎先生に初めて倉敷まで来ていただいて、大原記念ホールで御講演をお願いしたことが先生とお付き合いの始まりだったと思います。まだ赴任して間もないころで、名もない私の願いを快くお聞き頂いた先生の懐の大きさは忘れることが出来ません。以来、研究班に組み入れて頂いたり、研究会の会長をやらせて頂いたり、浅草に招待して頂いたり、国際シンポジウムに出席したり、エルシニア感染症では原因検索の研究を行ったり、などなど思い出が一杯です。残念ながら、原因はまだ不明ですし、冠動脈瘤防止の戦略も完全ではありませんが、若い人たちの活力に期待したいと思います。川

「NYの川崎病と Engle 教授の思い出」

崎先生のエネルギーを拝見していると、途中下

車のような態度をとっているように思われ、多少後ろめたい思いもあるのですが……。新しい分野も片手間では出来ないと思いますので、打ち込んでみたいと思っています。

ここで急に話題が変わりますが気になってい

ることをひとつ。「医療崩壊」と叫ばれています

が、医療を受ける人たちはどう受け止めておられるのでしょうか。「医療」は病める人がいて、それを支えようとする人がいれば成り立つのであって、「崩壊」はないのでは?と思います。医師が発すれば、患者さんは頼るすべを失ってしまいます。「医療政策」は大いに問題です。互助(思いやり、いたわり)の精神が失われた時、将来はあるのでしょうか。今一度考えて頂きたいと思います。

結局まとまりのないことを書いてしまいましたが、年をとった証拠かも知れませんが、これからの川崎病研究の進歩を期待して、そして、川崎先生がお元気なうちに多くの問題が解決できるように、皆さんでエネルギーを結集して頂きたいと思っています。側面援助は継続したいと思っています。(余計なことですが、6月に行われた川崎先生の大阪での御講演で、先生が熱意のあまり演壇を踏み外して倒れられましたが、みごと立ち上がり御講演を完了された姿は感動的でまぶたに焼きついています) (大阪発達療育センター南大阪療育園 小児科)

ニュースレターNo. 16 をお届けいたします。
ご意見ご感想をお寄せください。

市田 藤子

私は、とても若い頃(1985-86年)、ニューヨークのコーネルメディカルセンターに留学しておりました。当時、小児循環器科には、Mary Allen Engle という有名な教授がいて、臨床研究も不自由なくさせていただくことが出来ました(写真)。ニューヨークに移って間もない頃、病棟に川崎病疑いの4歳の男児が入院してきました。Engle 教授に誘われるままに、病棟で一緒に患者さんの診察をすることになりましたが、すべての症状がある典型例でした。白人で目が青く金髪で、結膜も口も真っ赤、まるでドラキュラのような様相でした。お茶目な男の子で、手の皮がむけ始めた頃には、両手を開いてドラキュラのまねをして、他の子供達を驚かせていました。教授達からも日本での川崎病の経験をあれこれと尋ねられ、フェロー達からも質問攻めに合いました。当時のニューヨークでは、まだ、あまり一般的には知られてはいなかった病気ですので、川崎病の研究者気取りで、日本で得た有りつ丈の経験と知識をご披露しました。日本では、駆け出しの小児科医で、とても恥ずかしい限りでしたが、日本から来た川崎病の研究者と誤解されてしまいました。

それからと言うもの、Engle 教授は、川崎病にとても興味を持つようになり、人種のるつぼであるニューヨークと単一民族の日本の川崎病の臨床像を比較して見て欲しいと難問を仰せつかりました。カルテや心電図を見直し、患者さんの家族へのインタビューを繰り返す毎日が始まりました。白人の英語はわかりやすく何の抵抗もありませんでしたが、ヒスパニックや黒人の英語はわかりにくく、テレフォンインタビューには、頭を抱える毎日でした。それでも、何とか論文を3編ま



(コーネルメディカルセンターで、中央のEngle 教授とフェロー達(1986年))

とめ、Engle 教授の期待にも応えることが出来、ほっとしてニューヨークを離れることが出来ました。その後も、Engle 教授にお会いする度に、開口一番聞かれることは、Dr 川崎はお元気ですか？川崎病の原因論はどこまで進んでいますか？心合併症は？治療の最新情報は？と、立て続けに質問され、日本の情報を常にサーチしていました。

Engle 教授は、今年1月に Maryland の Easton にある自宅で、86歳で亡くられました。乳ガンで闘病生活を送っておりました。クリスマスカードには、いつもエレガントな文章がびっしりと書かれ、必ず川崎病の研究を続けるようと、"Keep writing!"と書かれておりました。昨年の12月にいただいたクリスマスカードは、いつになく力強い文章がなく、おそらく渾身の力を振り絞って、すべての知人に、最後のクリスマスカードを送ったのではないかと思われました。亡くなったのは、それから1ヶ月後のことです。Eastonにある自宅には、1999年に泊めていただいたことがあります。入江にある緑に囲まれた美しい家で、庭には鹿やリスがやってきて遊んでいました。朝、網にかかったカニを取ってきて、Crab Cake を焼いて、大好物の Key Lime Pie と一緒に、ご馳走していただきました。

ジョンスホプキンス大学を卒業し、世界で初めてチアノーゼ性心疾患のこどもに行われたシャント手術にも立ち会っています。このシャント手術を行ったのは、アメリカの小児循環器の母と呼ばれている小児科医のHelen B. Taussig と外科医のAlfred Blalock ですが、Engle 教授は、このTaussig 教授の一番弟子でした。その後、ニューヨークのコネルメデイカルセンターに移ってからは、小児循環器部門を立ち上げて、アメリカの小児循環器診療と研究をリードしてきました。ギリシャから、100 人以上の先天性心疾患のこどもをコネルメデイカルセンターに引き取り、心手術を行うプロジェクトも成功させたり、主に先天性心疾患の診断と治療に関する研究を精力的に進めておりました。数多くの小児循環器医を育て、数々のAward も受賞しています。

しかし、退官を前に、最後に最も興味を持った

のは、アメリカでも後天性心疾患の最も重要な疾患となるであろう川崎病の治療でした。1g/kg 2日間投与のプロトコルで行った治療に関する論文も発表しています。川崎病の治療に関する研究に、最後の情熱を注いでいたことは、American College of Cardiology のメモリアルにも記載されております (http://www.acc.org/about/memorial_engle.htm)。帰国後、Engle 教授から刺激を受けた私は、逆に、冠動脈障害に関わるサイトカインや蛋白の研究を細々と続けることになりました。ニューヨークに行って、初めて、川崎病の研究をすることになった不思議な経緯です。川崎病をはじめとする小児循環器疾患の診療と研究に、“静かな情熱”を燃やし続けること、これが、今後の私の課題であり、Engle 教授への追悼でもあります。(富山大学小児科)

事務局から

【センター日報】

平成 20 年 5 月 9 日 平成 20 年度第 1 回理事会開催 6:00pm～ (於:当センター)

平成 20 年 6 月 7 日 平成 20 年度第 2 回理事会開催 12:30pm～ (於:東京 YWCA)

平成 20 年 6 月 7 日 平成 20 年度総会と研究報告会開催 (於:東京 YWCA) 1:00pm～
各年度の事業報告及び会計報告、次年度の事業計画及び予算計画は総会議事録と共に当センターでいつでも閲覧できますので、お気軽にお立ち寄りください。

平成 20 年 10 月 24 日 平成 20 年度 (財) 生存科学研究所川崎病研究会・平成 20 年度第 3 回特定非営利活動法人日本川崎病研究センター理事会合同会議開催予定 (於:生存科学研究所)

平成 21 年 3 月 13 日 平成 20 年度第 4 回理事会開催予定

【特定非営利活動法人日本川崎病研究センター会員総数 283】平成 20 年 7 月末現在

[正会員：107 名、3 法人、4 任意団体]：[賛助会員：164 名、4 法人、1 任意団体]

【川崎病に関するご相談】

当センターでは、川崎富作理事長が川崎病に関するご相談を受けております(無料)。お電話お手紙、Fax 等でご相談をお寄せください。(月曜日～金曜日(木曜日を除く)：午後 2 時～午後 4 時)

特定非営利活動法人日本川崎病研究センター
〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 1-1-1 久保キクビル 6 階
Tel:03-5256-1121 Fax:03-5256-1124

日本川崎病研究センターニュースレター

(No.1) 2001.1.1

発行：特定非営利活動法人 日本川崎病研究センター

【研究会・講演会】

- ★ 第7回北海道川崎病研究会 平成18年9月30日(土) 於:札幌市
代表世話人:濱田勇先生(札幌医師会夜間救急センター)
- ★ 第26回日本川崎病研究会 平成18年10月14-15日(土・日) 於:大阪朝日生命ホール
会長:荻野廣太郎先生(関西医科大学小児科)
- ★ 第18回関東川崎病研究会 平成18年11月25日(土) 15:00～ 於:日赤医療センター
会長:佐治勉先生(東邦大学小児科)
- ★ 第31回近畿川崎病研究会 平成19年3月3日(土) 13:00～ 於:テイジンホール
会長:村上洋介先生(大阪市立総合医療センター)
- ★ 第27回東海川崎病研究会 平成19年6月9日(土) 14:00～ 於:愛知県医師会館
地下1階「健康教育講堂」 当番世話人:判治康彦先生(一宮市民病院小児科)
- ★ 「川崎病の子供を持つ親の会」問い合わせ先: Tel:044-977-8451 浅井 満